

地域の特性を活かしたダチョウ事業への取り組み



中尾 登志雄

Toshio Nakao
株式会社テクノアース
代表取締役

自然豊かな萩市むつみ地域の環境、特性などを考え、新たに取り組んだ「ダチョウふれあいパーク(仮称)開設及びダチョウ肉や装飾品の製造販売」が、平成19年度「新分野進出モデル構築支援事業」に採択された、株式会社テクノアース。ダチョウの飼育という全く新しい分野にチャレンジされた、中尾登志雄社長にその意気込みを語って頂きました。

株式会社 テクノアース 会社概要

創業 昭和35年
代表者 代表取締役 中尾 登志雄
従業員数 10名
営業内容 土木工事業、とび土工事業
石工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業
水道施設工事業、管工事業



■新分野進出へ 苦労を糧に新たなステップへ

株式会社テクノアースは、昭和35年4月に吉部土建として創業。幅広く様々な事業を行ってきた中で、10年前に株式会社総合情報システムを関連会社として立ち上げ、IT分野での新事業進出を図りました。「これからの時代に合った分野だと思いチャレンジをしましたが、なかなか軌道に乗りませんでした。デジタルデータおよびGISの利用がまだ認識されていなかった事が原因ですね」と中尾社長。その後、社名変更し、総合情報システムも統合。新分野進出への難しさを身をもって感じ、それを糧に新たな「ダチョウ事業」への取り組みが始まりました。

■観光PRの側面もふまえて 事業を開始

食肉や革製品として利用され、南アフリカを中心に海外では急速に需要が拡大しているダチョウ市場。日本においてはの飼育実績は約15年前からで、現在国内で450カ所前後の飼育所(研究所も含む)に約1万羽のダチョウが飼育されていると推定されています。ダチョウは寒さや暑さに強く生長が早い。草食で飼育コストが抑えられるのが特徴です。

にお伺いしたところ、「この地域には休耕地があるし、千石台では大根など野菜も生産さ



こんな小さなダチョウも体調2.5m以上に!

れている。空いた土地を有効活用し、地場の野菜残滓等を飼料にできればと思いました。また、比較的手間のかからないダチョウの飼育は、若者でなくても可能で、将来的に羽数が増えても地域の人々に委託管理してもらうこともできると考えました。」とのこと。加えて、むつみ地域は県道萩津和野線が走るドライブコースとなっており、ひまわりロードや昆虫王国など、自然の観光資源が整備された場所であることから、観光PRとしての役割にも着目。一般の方に気軽にダチョウとふれ合ってもらえる「だちょうの里」として、平成20年の開園に向け準備を進めています。

■ヘルシーなダチョウ肉は 生活習慣病予防にも!

現在、同社では10羽のダチョウを飼育。中尾社長は自らその飼育状況を日記に細くつけられています。「マニュアルはありますが、その土地によって環境も違いますし、

一概にはいえませんが、物音に慣らすためにラジオをずっとつけてみたり、夜も照明をつけてみたり…。ダチョウがより健康でいられるよう色々と工夫をしています。」将来的には300羽以上の飼育を目標に、飼育地・売買方法など並行して構想を進めているとのこと。

今後の展望について中尾社長は「ダチョウは低脂肪・低カロリー・高タンパクのヘルシーな食材です。現在は肉全体の消費量の中で、1%にも満たないですが、生活習慣病予防など健康志向に注目が集まる昨今、ダチョウ肉が日常的に食材の選択肢に入る日がくるようにいろいろ努力しています。」と語られました。

地域の環境、気候、観光と、さまざまなことを踏まえて取り組まれたダチョウ事業。数年後には「だちょうの里」が、県内だけでなく全国へとその名を知られていくことを期待しています。

